

九州支部だより



No.127 2015 年 7 月

掲載内容

- ◆ 2015 年度「第 15 回気象教室」開催のお知らせ
- ◆ 2015 年度「第 6 回こども気象学会」開催のお知らせ
- ◆ 2015 年度第 1 回理事会概要報告
- ◆ 支部会員からの便り
- ◆ 事務局からのお知らせ

「第 15 回気象教室」開催のお知らせ

【日時】 2015 年 8 月 22 日 (土) 16 時 00 分～18 時 30 分

【会場】 福岡市立中央市民センター

福岡市中央区赤坂 2 丁目 5 番 8 号

【問合せ先】 九州支部事務局 (最後のページをご参照ください)

申込不要

参加無料

どなたでも参加できます



地下鉄：

「赤坂」2 番出口

徒歩 5 分

バス停：

「赤坂門」

徒歩 5 分

「警固町」

徒歩 3 分

気象教室 講演内容

最近の気象は異常なのか？

廣岡俊彦 教授

九州大学大学院理学研究院

地球惑星科学部門

今年も、九州の各地で 50 年に一度といわれる豪雨が生じています。これに限らず、最近は何十年に一度といわれる現象が増えているように感じられます。今回は、このように身近なところで起こっている現象から、一般の方々にはなじみの薄い現象まで、大気中に生じているさまざまな現象を見つめ、果たして最近の気象は異常なのか、そうだとすると何が原因と考えられるのかを、最新の知見をまじえて、広く検討してみたいと思います。



地球温暖化とスーパー台風

坪木和久 教授

名古屋大学地球水循環研究センター

2013 年にフィリピンに上陸したスーパー台風ハイエンのもたらした甚大な被害は、スーパー台風の脅威を見せつけました。地球温暖化とともにスーパー台風がどのくらい強いものになるのか、さらにそれが日本にも上陸する可能性があるのかは、防災対策の観点から大きな問題です。私たちは雲解像モデルを用いて、これらの問題に取り組んでいます。今回は地球温暖化と将来台風の強度について重点を置いて、台風についての基本的なことから最新の研究成果までをお話します。



第6回こども気象学会 開催のお知らせ

こども気象学会の作品を募集しています

学校の気象クラブや夏休みの自由研究でとりくんだ身近なお天気の観察や気象に関する研究の成果を募集します。

優秀な作品は表彰するとともに、発表会で気象の専門家がアドバイスします。

[応募資格]

福岡県内の小学校の児童

(個人でも気象クラブなど団体でもかまいません)

[内容]

- ・ 天気、雨、台風、雲などの観察や実験結果をまとめたものなど、「気象」に関するものなら何でも結構です。
- ・ 星(天文)や地層・岩石などに関するものは、申し訳ありませんが受け付けていません。

[応募方法]

九州支部ホームページをご確認ください。

<http://msj-kyushu.jp/event.html>

[応募×切]

2015年 9月25日(金) 必着

[問合せ先]

九州支部事務局(最後のページをご参照ください)

[表彰式・発表会日時] 2015年10月25日(日) 13:30～

[会場] 九州大学西新プラザ (福岡市早良区西新2丁目16-23)

日本気象学会九州支部 2015 年度第1回理事会概要報告

【日時】 2015 年 5 月 26 日 17 時 15 分～18 時 20 分

【場所】 福岡市博多区（深見ビル会議室）

【出席者】 廣岡常任理事、富田理事、横手理事、齋藤理事、若林理事、海老原理事
用貝事務局長、山本幹事、横山幹事、高畑幹事

【配布資料】

日本気象学会九州支部 2015 年度理事会議案書

資料 1 第 38 期日本気象学会九州支部理事補充選挙の結果について

資料 2 日本気象学会九州支部規約

資料 3-1 2014 年度九州支部収支計算書

資料 3-2 2014 年度九州支部強化活動収支計算書

資料 3-2 日本気象学会九州支部 2014 年度会計監査報告

資料 4 九州支部ジュニアセッション企画案

資料 5 気象学会入会勧誘のためのチラシ案（高校の理科教員、高校生向け）

資料 6-1 2015 年度九州支部収支予算書

資料 6-2 2015 年度九州支部強化事業収支予算書

【議事概要】

事務局長より、理事 8 名中 6 名の出席で過半数となっていることから理事会が成立していることが報告された。

このあと、議事次第に沿って、事務局長の司会により議事が進められた。会議の概要は次のとおり。(理)は理事からの発言、(事)は事務局からの発言内容。

1 第 38 期理事補充選挙結果報告

- ・事務局から、選挙の結果について、横手嘉二氏、齋藤誠氏、若林正夫氏、海老原智氏が新任されたことが報告された。

2 支部長、常任理事選出

- ・理事の互選により、横手嘉二氏が支部長に、齋藤誠氏が常任理事に選出された。

3 2014 年度事業報告

- ・事務局から、2014 年度の事業について以下のとおり報告された。

3-1 理事会

2014 年 5 月 27 日（火）、福岡市博多区（福岡国際会議場）において、理事 8 名中 6 名出席で開催された。議案書に沿って、支部長および常任理事の選出、2013 年度事業報告、2014 年度事業計画案の承認を行ったことが報告された。

3-2 会員向け研究会など

（ア）2014 年度日本気象学会秋季大会

2014 年 10 月 21 日（火）～23 日（木）、福岡市博多区（福岡国際会議場）で開催され、発表申込は 552 件（口頭発表：332 名、ポスター：210 名）、参加者は約 900 名となった。

（イ）第 36 回支部発表会

2015 年 3 月 7 日（土）、鹿児島市（宝山ホール）で開催され、特別講演を含め 18 題の発表があり、約 50 名の参加があった。また、通常の研究発表に加え、以下の特別講演を行った。

大河内康正 熊本高等専門学校 建築社会デザイン工学科 特任教授

「地域気象の解明を目指して ― 気象の研究を振り返って ―」

3-3 一般向け行事

（ア）第 14 回気象教室

2014 年 8 月 30（土）、福岡市早良区（九州大学西新プラザ）において、「熱帯の気象」をテーマとして、楳田貴郁氏（福岡管区気象台）および西憲敬氏（福岡大学）による講演を行い、約 100 名の参加があった。

(イ) 第5回こども気象学会

2014年11月15日(土)、福岡市早良区(九州大学西新プラザ)において開催し、16題の応募の中から選考された9題の受賞者による発表、各賞の表彰などを行った。

(ウ) 第2回気象サイエンスカフェ in かごしま

2015年1月31日(土)、鹿児島市(マルヤガーデンズ「シンケンススタイルキッチン」)において、西尾正則会員(鹿児島大学大学院)による講演「こまんか気象衛星のわっぜか夢 ～ 鹿児島大学から宇宙へ挑戦～」を行い、30名(事前申し込み先着順)の参加があった。

(エ) 第6回気象サイエンスカフェ in 九州

2015年2月7日(土)、福岡市中央区(電気ビル共創館「BIZCOLI」)において、川野哲也会員(九州大学大学院)による講演「集中豪雨に勝つ! ～まずは敵を知ろう～」を行い、約40名(事前申し込み先着順)の参加があった。

3-4 支部だより

7月、10月、12月、3月の4回発刊したことが報告された。

3-5 奨励賞

推薦された1名を担当理事が選考し、本田匠会員(九州大学大学院 理学府地球惑星科学専攻 博士課程3年)に授与したことが報告された。

3-6 ホームページ

支部ホームページの掲載内容や運営方法などについて報告された。

3-7 会員数

2015年5月26日現在の会員数は188名で、減少傾向が続いていることが報告された。

3-8 決算報告、会計監査報告

2014年度の支部会計について、支部交付金(会員数比例部分と支部ごとの定額部分の合計)と、事業活動内容に応じて交付される支部強化基金の収入(本部からの交付)と各事業ごとの支出について報告された。また、監査の結果これらについて適正に処理されていることが報告された。

- ・以上事業報告のうち、決算における気象サイエンスカフェ in 九州の会場費について以下の質疑があった。

(理)予算額0円に対して決算額が3万円だったのはなぜか。

(事)前年(2013年度)は喫茶店を会場としたため会場使用料が必要なかったため当初計画では会場使用料を予算計上していなかったが、昨年度(2014年度)は有料の会場を使用したことから決算において赤字となった。

・このほかには、事業報告および決算報告については特に意見はなかった。

4 2015年度事業計画案

4-1 理事会

4-2 会員向け研究会など

(ア) 第37回支部発表会

- ・2015年度の支部発表会は福岡市で開催することが決まった。
- ・2016年度の開催地は熊本市での開催を検討することとなった。
- ・開催地を今後も持ち回りとするについて以下の議論があった。

(理)支部発表会の開催場所を変えることの意義は何か。開催地地元の会員の参加に配慮するという意味か。遠い場所での開催では参加者が減るのではないか。

(事)研究を本務にしている会員以外が発表する場合には支部から旅費を支給するので、遠いという理由での影響は小さいはず。一方で各地で開催することにより発表しない地元会員への参加機会を提供するという意義は大きい。

(事)過去には福岡以外での開催の実績があり、地元の大学等で会場の選択および確保程度をやっていただければ、あとは事務局が準備等を進める。

(事)今年度は順番から福岡の開催となるが、来年度は事務局提案のとおり熊本で開催することを検討する。この場合熊本大学の冨田理事には場所の選択などをお願いすることになる。

- ・支部発表会の開催場所などのほか、議論は会員数の減少や学会の役割など広範な話題にまで及んだ。主な意見や議論は以下のとおり。(議題である研究会以外の意見についても、気象学会や支部のあり方について有効な内容であったことから、要点を以下に記す。)

(理)会員の所属などは事務局で把握できるのか。

(事)気象台職員や大学に所属している人はわかるが、それ以外の会員の所属や職

業など個人情報には十分に把握できない。

(理) 気象台所属といっても、最近では会員が台長だけで若い職員は入会を勧めてもほとんど入会していないのが現状。

(理) 大学でも似たような状況。入会したとしても就職先が気象と関係がない企業などの場合、就職後に学会を退会することが多い。

(理) 会員減少は本部でも議論されている。

(理) なぜ会員を減らしたくないのか、学会としての財政的な問題なのか、気象学の普及を進めるためなのか、これによって対策も変わってくる。たとえば後者であれば会費の値下げが有効かも知れない。

(理) 財政的な問題だけではないはず。

(理) 会員数の減少により印刷物の売り上げが減ることで、事業収入が減少するという問題もある。PDF 化してしまうと減るのは当然ではあるが。

(理) 気象研究ノートは発行数（回数）が多すぎるとの声もある。定期購読にしている場合、経費的な負担増のため定期購読をやめる例があるらしい。

(理) 会員が執筆する論文数は増えているが、外国の論文誌や気象学会の SOLA への投稿が増えており、気象集誌への投稿は減っているのではないか。論文誌は多様化している。

4-3 一般向け行事

(ア) 第 15 回気象教室

- ・最近数年間の開催状況やテーマ、社会情勢や最近の気候などを考慮して、事務局案として、名古屋大学の坪木教授および九州大学の廣岡教授（支部常任理事）を講師として地球温暖化と異常気象をテーマとして開催することについて提案された。また坪木教授については事務局から案の段階として内諾を得ていることについて報告された。
- ・これに対して特に異論はなく、事務局で日程調整や会場の手配など準備を進めることとなった。
- ・また、講師の候補である廣岡教授からは、検討するとの回答を得た。

(イ) 第 6 回こども気象学会

- ・例年どおり開催するが、いくつかの課題を抱えていることから、来年度以降も継続するかどうかは検討することになった。

(ウ) ジュニアセッションの試行

- ・事務局からジュニアセッション（以下「JS」という）の試行について提案された。
今年度は予算（会場使用料など）を計上していないため、対象となる高校生の年間スケジュール等を考慮した上で、子ども気象学会あるいは支部発表会と同日開催として今年度は試行という位置づけで開催することになった。
- ・この件について、以下のような意見やコメントがあった。

(理)同様の取組は本部においても今年度から始まっており、春季大会において開催された JS では広い範囲に声をかけたが、応募数はあまり増えなかった。支部で取り組む場合もこれが課題ではないか。

(理)本部の取組は評議員会において外部有識者からの意見に基づいて始まったもの。

(理)本部での JS の発表内容を見ると高度なものが多いが、指導者（教員）の熱心さや専門分野に左右されているので、支部で行う際もこれに留意する必要がある。

(理)ほかの学会等の同様の取組についても調べてみる必要がある。

- ・このような意見を参考に、事務局で高校等への働きかけなど実施へ向けて取組を進めることとなった。
- ・なお、これらの一般向けイベントなどについては、非会員へも広く周知するため、会員から知人へのメール転送をお願いすることも有効ではないかとの提案があった。

4-4 支部だより

従来どおり発行することとなった。

4-5 奨励賞

4-6 日本気象学会奨励賞受賞候補者推薦

- ・奨励賞（支部および本部をあわせて）の意義や基準（レベル）について議論された。

(理)かつては学校教員の活動にも奨励賞を出していたのではないか。

(理)本部の奨励賞は 10 年ほど前にレベルが上げられたはずである。

(理)研究を本務としない会員（学生を含む）を対象にしていることから、レベルを上げることは厳しいのではないか。

- ・より明確な受賞基準を検討するため、過去の受賞者と受賞理由を調査することとなった。

4-7 ホームページ

- ・従来どおりの方針で運用することとなった。

4-8 会員数

- ・事務局から JS の実施などに関連して、高校の理科教員や高校生への働きかけなど、会員拡大へ向けての取り組みを進めることが提案された。

4-9 予算案

- ・JS の試行は予算を計上していないため、もし経費が必要となった場合には予備費から支出する。

- ・繰越金について以下のようなコメントがあった。

(理)繰越金が多いようなので、もう少し積極的に使用してもいいのではないか。

(事)去年は秋季大会に備えて、万一のために繰越金を多くしていたという背景がある。経費が必要となれば有効に使用したい。

- ・これ以外に特に意見はなく、原案どおり予算案が承認された。

5 担当理事の分担

- ・理事会資料記載の原案どおり各理事の担当が承認された。

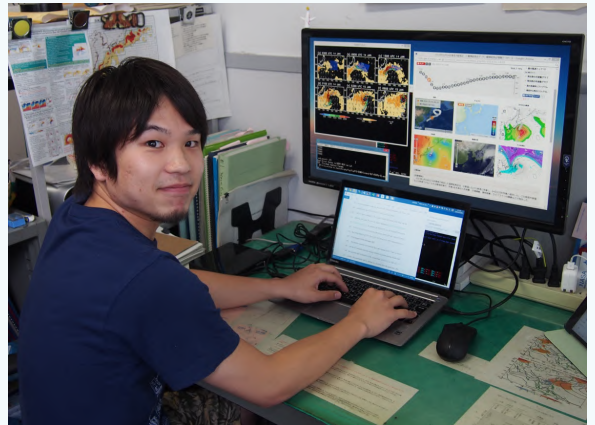
以上

支部会員からの便り

「黒潮/黒潮続流から蒸発した水蒸気はどのように温帯低気圧の急発達に影響を及ぼすのか？」

平田英隆

九州大学大学院 理学府
地球惑星科学専攻
博士後期課程 2 年



私は現在、九州大学理学府地球惑星科学専攻の博士後期課程に在籍し、急速に発達する温帯低気圧（通称、爆弾低気圧）と中緯度海洋間の双方向作用について研究しています。今回の「支部会員からの便り」では、私が最近、取り組んでいるトピック（黒潮/黒潮続流域からの水蒸気供給が爆弾低気圧の発達に与える影響に関するプロセスの解明）の研究紹介をしたいと思います。

まず、簡単に研究対象である爆弾低気圧について説明したいと思います。爆弾低気圧は爆発的（急速）に発達する温帯低気圧の呼称です（Sanders and Gyakum 1980）。爆弾低気圧は暴風、大雨・大雪、高波などを誘起するので、発生域周辺の気象・海象災害の発生と密接に関連しています。最近では、2014 年 2 月上旬に太平洋沿岸で発生した大雪、2013 年 3 月上旬に北海道道東地方で起きた急激な天候変化による気象災害は爆弾低気圧によってもたらされました。このように、爆弾低気圧は気象災害の発生要因となるため、その特性の適切な理解は減災などの観点から重要です。

北半球では、爆弾低気圧は日本付近と北アメリカ東岸で多く発生することが過去の研究からわかっています（例えば、Lim and Simmonds 2002）。この要因の一つとして海洋の暖流の影響が挙げられます。日本付近には黒潮/黒潮続流、北アメリカ東岸にはメキシコ湾流と呼ばれる世界でも有数な暖流が存在しています。暖

流は熱帯から暖かい海水を中緯度へ輸送し、中緯度大気へ多量の熱や水蒸気を放出します。これらの暖流から大気へ供給された熱や水蒸気は温帯低気圧の急発達を促進します。

それでは、暖流から蒸発した水蒸気はどのようなプロセスをたどって低気圧の急発達に影響を及ぼすのでしょうか？過去の研究は、それらの水蒸気の凝結によって誘起される凝結熱（潜熱加熱）の効果が低気圧の発達を促すことを指摘しています（例えば、Reed et al. 1993）。しかしながら過去の研究では、どのように低気圧システムと関連して暖流からの水蒸気蒸発が促進され、その蒸発した水蒸気がどのように低気圧中心近傍へ輸送され、収束・凝結し、低気圧の発達へ影響を与えるのかは必ずしも明らかになっていませんでした。この謎を明らかにすることが私の研究のモチベーションです。

私は、高解像度大気海洋結合モデル CReSS-NHOES（相木ほか 2015）によって再現された爆弾低気圧を詳細に解析することで上記の現象の解明に取り掛かりました。本稿では主に 2013 年 1 月中旬に発生した爆弾低気圧について解析した結果を示します。この低気圧は黒潮/黒潮続流の南端に沿って移動しながら急発達し、関東地方に大雪をもたらした事例です（図 1）。

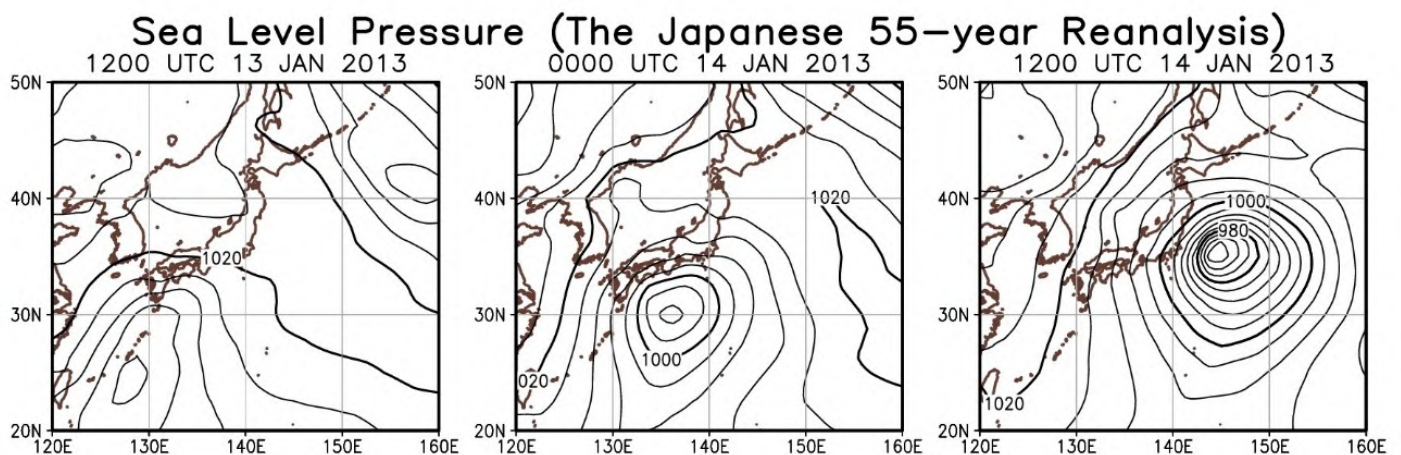


図 1. 2013 年 1 月 13 日 12UTC、14 日 00UTC、14 日 12UTC の海面更正気圧を示す。
使用データは気象庁 55 年長期再解析データ (Kobayashi et al. 2015) である。

まず、低気圧発達中の海面からの水蒸気蒸発の分布について見ていきます（図 2）。低気圧の北象限で黒潮/黒潮続流から多量の水蒸気の蒸発が生じています。この暖流からの蒸発の活発化には、低気圧に伴う寒冷コンベアベルトと呼ばれる

気流が重要な役割を担います。寒冷コンベアベルトは低気圧の北象限に位置する寒冷かつ乾燥した空気を伴う東よりの風のベルトです。寒冷コンベアベルトに伴う乾燥した強風が暖流に重なると、暖流からの水蒸気蒸発に好適な場が形成されます。その結果、寒冷コンベアベルトと暖流がちょうど重なる低気圧の北象限では非常に海面からの蒸発が強まるのです。

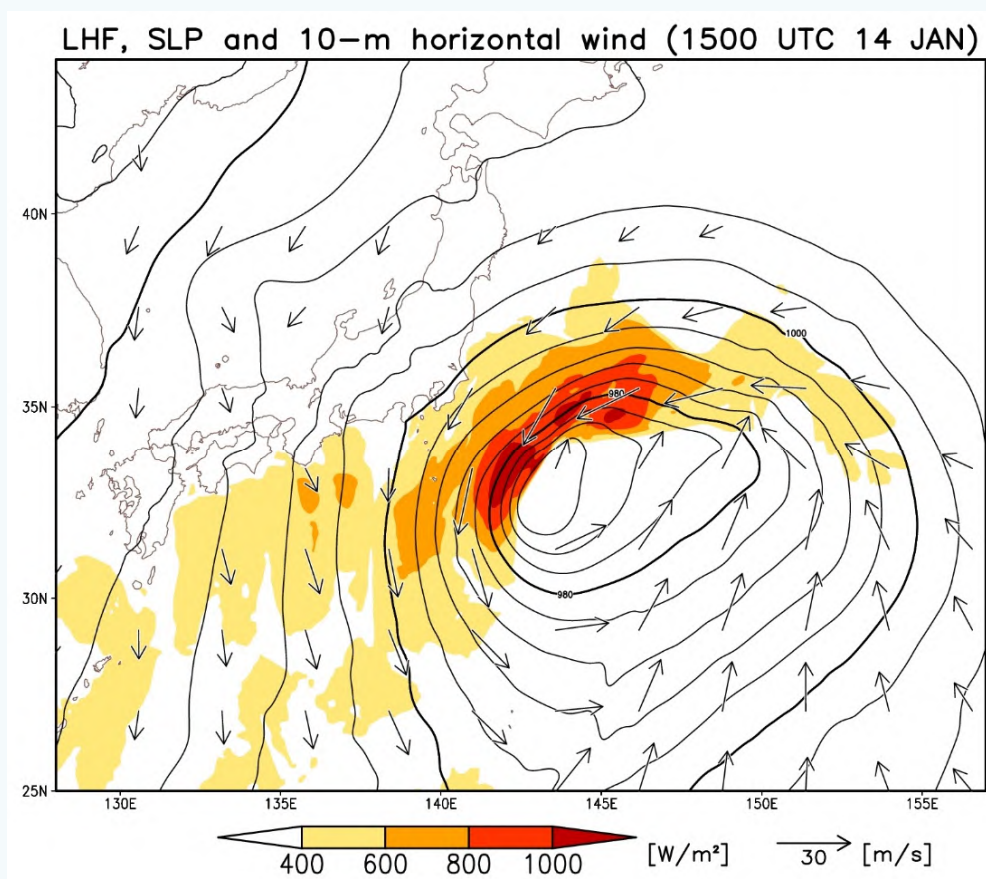


図 2. CReSS-NHOES による 2013 年 1 月中旬に発生した爆弾低気圧の再現結果 (2013 年 1 月 14 日 15UTC)。陰影は海面からの潜熱フラックスを示す。潜熱フラックスが正の領域は海面から水蒸気の蒸発が生じている。等値線、ベクトルはそれぞれ海面更正気圧と 10 m 高度における水平風を示す。

では、この水蒸気はどのように低気圧内に運ばれるのでしょうか？これにも、寒冷コンベアベルトが重要な役割を担います。図 3 は、黒潮続流域の海面付近に存在していた空気塊がどのような挙動をするのか、後方流跡線解析によって調査した結果を示しています。初期時刻に暖流上に位置していた空気塊は寒冷コンベアベルトによって低気圧中心付近に引き寄せられる様子が見て取れます。そして、低気圧の北西象限で上昇（つまり、対流圏下層で収束）しています。この上昇域はいわゆる後屈前線に対応しています。

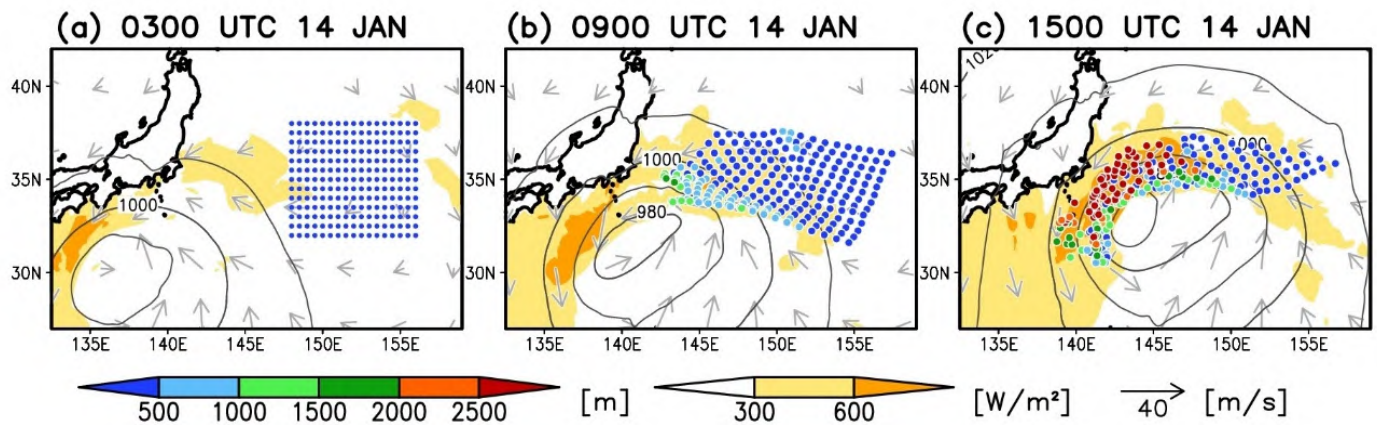


図 3. 後方流跡線解析によって計算された空気塊の位置を示す。空気塊の色は各空気塊の存在高度（単位：m）を示す。2013 年 1 月 14 日 03UTC に黒潮続流域の高度 500 m に空気塊を配置し (a)、その 6 時間 (b)、12 時間後 (c) の空気塊の位置と高度を示す。背景の陰影、等値線、ベクトルは CReSS-NHOES によってシミュレートされた潜熱フラックス、海面更正気圧、10 m 高度の水平風を示す。

これらの結果から次のようなプロセスが考えられます。まず寒冷コンベアベルトが暖流に重なるときに、暖流から大気へ多量の水蒸気が供給されます。その水蒸気は、寒冷コンベアベルトによって低気圧中心近傍へ輸送され、後屈前線付近で収束・上昇し、凝結します。この凝結に伴い誘起された潜熱加熱が低気圧の発達を促進します。このように本研究の結果から、従来の研究では明らかになっていなかった暖流からの水蒸気供給と低気圧発達を繋げるプロセスが示されました。

それでは、このプロセスが実際に低気圧の発達に対してどれだけ影響を与えているのでしょうか？また、黒潮続流域では顕著な海面水温変動が生じることが知られています。もし、上記のプロセスが本質的に低気圧発達に重要であれば、その海面水温変動が低気圧へ影響を与えている可能性もあります。本稿で紹介した研究を行う過程でこのような新たな疑問が生まれてきました。今後はこのような新たな課題に取り組んで行こうと思います。

また、私が所属している研究室（九州大学気象学・気候力学研究室）では、爆弾低気圧情報データベースを運営しています。

http://fujin.geo.kyushu-u.ac.jp/meteorol_bomb/index.php

このデータベースでは過去に日本近海で発生した爆弾低気圧に関する気象・災害情報を提供しています。ご興味をもたれた方がいらっしゃいましたら、ご覧いただければと思います。

最後になりますが、今回紹介した研究は九州大学大学院の川村隆一先生、名古屋大学地球水循環研究センターの加藤雅也研究員、篠田太郎先生との共同研究の成果です。また、このような場で研究紹介をすることを勧めてくださった、山口大学の鈴木賢士先生、九州大学の川野哲也先生に御礼申し上げます。

参考文献

相木秀則，吉岡真由美，加藤雅也，森本昭彦，篠田太郎，坪木和久：大気海洋波浪結合モデルの開発と台風実験への応用．沿岸海洋研究, 52, 139-148.

Kobayashi, S., and Coauthors, 2015: The JRA-55 Reanalysis: General specifications and basic characteristics. J. Meteor. Soc. Japan, **93**, 5–48, doi:10.2151/jmsj.2015-001.

Lim, E.-P., and I. Simmonds, 2002: Explosive cyclone development in the Southern Hemisphere and a comparison with Northern Hemisphere events. Mon. Wea. Rev., **130**, 2188–2209

Reed, R. J., G. Grell, and Y.-H. Kuo, 1993: The ERICA IOP 5 storm. Part II: Sensitivity tests and further diagnosis based on model output. Mon. Wea. Rev., **121**, 1595–1612.

Sanders, F., and J. R. Gyakum, 1980: Synoptic-dynamic climatology of the “bomb”. Mon. Wea. Rev., **108**, 1589–1606.

事務局からのお知らせ

「九州支部だより」の原稿募集

会員の皆様からの原稿を募集しています。

今号では、九州大学大学院博士後期課程2年生の平田英隆さんの原稿を掲載させて頂きました。ご投稿ありがとうございました。

広報活動にご協力をお願いします

8月22日に開催を予定しております気象教室は、どなたでもご参加いただけます。お知り合いに気象にご関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、開催案内の転送をお願い致します。パンフレットも作成予定ですので、配布をご希望の方は九州支部事務局までご相談ください。

メールアドレス登録のお願い

6月下旬にメールアドレスの登録をお願いするハガキをお送りし、多数の方にご登録頂きました。ありがとうございました。

メールアドレスをお持ちの方で現在未登録の方は、九州支部事務局 info@msj-kyushu.jp までお知らせください。

ホームページのお問い合わせフォームもご利用いただけます。

<http://msj-kyushu.jp/contact.html>

九州支部奨励賞の申請・推薦について

九州支部では、「支部奨励賞」の贈呈を行っています。奨励賞の対象となる方は、「気象学の向上に資する研究を行っている」「気象学の教育・啓蒙活動を積極的に行っている」「気象学を応用した活動で社会に貢献している」方々です。これらに該当する会員の申請・推薦をお願い致します。

申請・推薦のメ切は2015年12月末日までです。詳細は九州支部ホームページをご確認ください。 <http://msj-kyushu.jp/prize.html>

登録情報の変更について

転居や異動等により登録情報に変更が生じた際には、①または②の方法※で変更手続きをお願い致します。

①気象学会本部に連絡

WEB、FAX、郵送による変更が可能です。

詳しくは本部のホームページをご参照ください。

<http://www.metsoc.jp/about/join> (気象学会本部ホームページ)

②九州支部事務局に連絡

WEB、メール、郵送による変更が可能です。

※本部と九州支部のどちらにご連絡頂いても登録情報は更新されますが、両事務局で反映されるまでに時間差があります。冊子「天気」の発送先を即座に変更されたい方は本部へ、メールアドレスの登録・変更をご希望の方は九州支部事務局へのご連絡がお勧めです。

事務局メンバー紹介

用貝敏郎 (事務局長)

会員番号 5000 番の用貝 (ヨウガイ) です。鹿児島県の出身です。気象学会員になって 35 年過ぎました。これまで九州支部発表会も含め、何回となく学会で発表させていただいております。そのお礼という訳ではありませんが、一昨年度から事務局長を務めております。今後とも、よろしくお願いします。

横山辰夫 (事務局員)

今年度から支部事務局を担当することになった横山です。事務局長の会員番号 5000 番より少しだけ小さい 4000 番台というベテラン会員ですが、学会の運営にかかわるのは、だいぶ前に編集委員として「天気」の編集にかかわって以来のことになります。会員の減少など様々な課題がありますが、支部活動を通して気象学、大気科学の発展に貢献するため知恵を絞りたいと思います。

高畑一成 (事務局員)

同じく今年度から九州支部の事務を担当させて頂いております高畑です。会員番号は事務局長の倍以上、事務局最年少です。

社会でも学会でも実績のないぽっと出の事務員ですが、ご迷惑をお掛けしないよう努力致しますので、温かい目で見守って頂けると幸いです。



2015 年 7 月発行

〒810-0052

福岡市中央区大濠 1-2-36

福岡管区气象台防災調査課内

日本気象学会九州支部

TEL: 092-725-3614

FAX: 092-725-3163

Mail: info@msj-kyushu.jp

HP: <http://msj-kyushu.jp/>